

アイユ

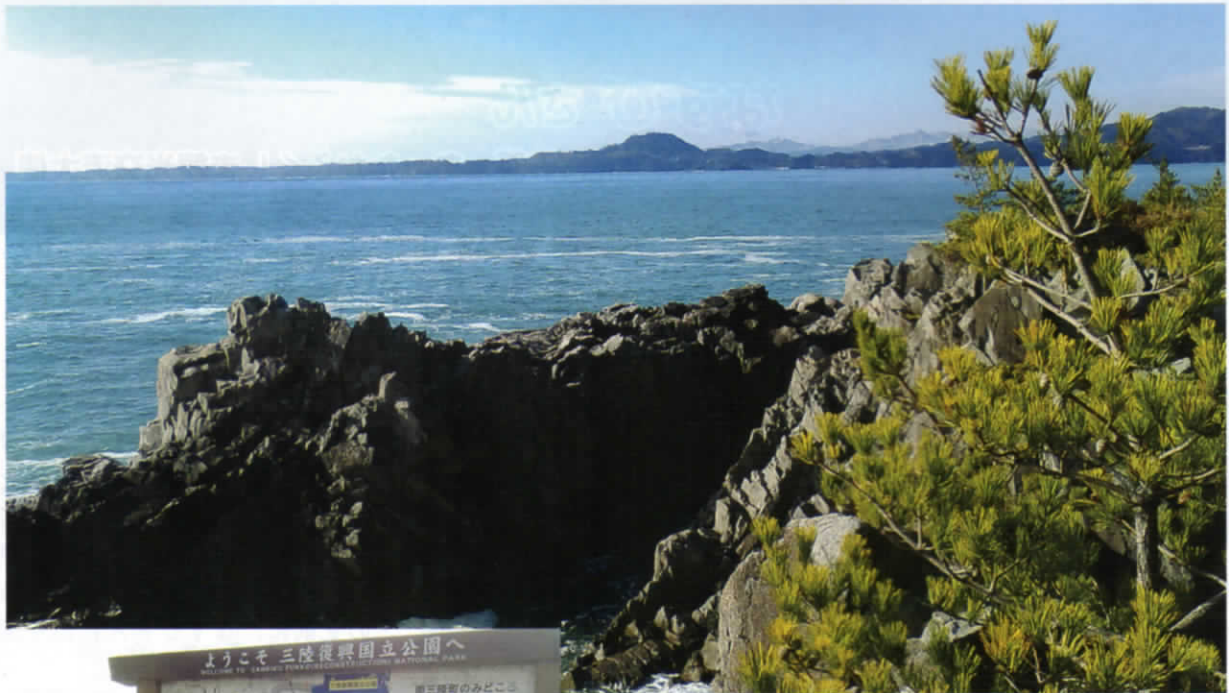


2016年 Vol.298

アイユ (ALLYU) とは、ペルーの先住民族の言葉・ケチュア語で「人々の集まり」を意味しています。

公益財団法人 人権教育啓発推進センター



— 忘れないために —



▲岩手県陸前高田市の広田崎。環境省が三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のプロジェクトの1つとして、三陸海岸沿いに長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」を整備。その踏破に挑戦しているなすびさんが撮影した。

(なすびさんのインタビュー記事：1-4ページ)

主な記事

 <インタビュー> 「皆さんと一緒に歩きます！」なすびさん (タレント、俳優、あったかふくしま観光交流大使) …1	
連載 <障害はどこにある?> 久野 研二さん ……5	芝大門人権講座 ……6
<ミルカ> 「企業の社会的責任と人権」セミナー北九州会場ほか ……7	
 人権シンポジウム in 郡山 ……13	平成28年度啓発活動年間強調事項 ……17



人で抱え込まないようにしてほしい」と呼びかけた。

*「えせ同和行為対応の手引」は法務省のホームページ（<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken86.html>）からダウンロードできます。

取組事例から学ぶ

企業の社会的責任と人権セミナー

「平成27年度『企業の社会的責任と人権』セミナー・北九州会場」が昨年11月25日、「ウエルとばた」で開かれた（経済産業省中小企業庁、九州経済産業局、（公財）人権教育啓発推進センター主催）。基調講演と企業2社の取組事例発表が行われ、企業関係者らが参加した。

基調講演では、水尾順一さん（駿河台大学経済経営学部教授）が「社員（職員）のやる気を起こさせる、CSRと人権・労働」強く、やさしい、しなやかな組織をめざして」と題して講演。「企業の社会的責任（CSR）は、法的責任、経済的責任、倫理的責任、社会貢献的責任の4つの責任から構成されていることを認識してほしい」と述べるとともに、日本企業の課題として、ハラスメント、メンタルヘルス、

ワークライフバランスを含めた男女共同参画に関する問題を指摘し、「課題解決のためには、コミュニケーションを積極的に図り、組織の活力を高めることが必要」と述べた。

事例発表を行った企業は、株式会社ふくや（福岡市）と日本ウエストーン株式会社（岐阜市）。

明太子の製造・販売を行う（株）ふくやは、育児休業明けの社員の支援を中心とするワークライフバランスの取組みについて発表した。同社では、育児休業から復帰後の勤務体系を6つ用意し、本人が選べる仕組みを設けている。そして、その説明や社員の状況確認のために、休業前や



休業中にヒアリングを重点的に行っているという。人事課長の山中崇彦さんは、「復帰後の社員から働きづらいとの声を受けてつくられた制度だが、経営者が率先して推奨していることが定着した大きな理由」と述べた。また、同社は、「創業者が地域貢献をするためにつくった会社」であり、社員が町内会の役員等で地域活動に参加したときには、毎月手当を支給して支援していることも紹介した。

また、社員30人のうち、6人が障がい者である日本ウエストーン（株）は、障がいのある人がいきいきと「一人の働き手」として活躍している様子を紹介した。清掃用品のクリーニング会社である同社の経営理念は、「人を活かし、物を活かし、資源リサイクル活動を通じて社会貢献に努め、お客様と社員が誇りと喜びを共創できる会社を目指す」こと。代表取締役社長の白井麻紗杜さんは、「仕事にあわせて障がい者を雇用するのではなく、障がい者に合わせて仕事をつくるビジネスモデルを構築している」と述べるとともに、「お客様、社会、私どもの会社、三者にとって三方よしの考え方で取り組んでいきたい」と抱負を述べた。

「ミルカ・ミルカ」は、ベルーの先住民族の言葉・ケチュア語で「さまざまな色やもの」の意味です。このコーナーでは、人権に関するさまざまな情報を幅広く紹介していきます。